

腸内環境と選手コンディショニング研究

松波病院、文科省助成事業に

松波総合病院の付属研究所「まつなみリサーチパーク」(羽島郡笠松町田代)が進める、腸内細菌とアスリートのコンディショニングをテーマにした研究計画が、文科省の2024年度科学研究費助成事業に採択された。同病院柔道部の選手などを対象に、試合前に腸内環境を改善させることがパフォーマンス向上につながるかを検証する。民間病院が採択されるのは県内で初めて。

(安井真由子)



腸内細菌とコンディショニングの関係を研究する吉川智美課長(右)と松波英寿理事長。羽島郡笠松町田代、松波総合病院

民間病院では県内初
病院柔道部対象に検証

体の調子を整え、能力を最大限に発揮できる状態にする「コンディショニング」。近年スポーツ界では技術そのものの習熟に加え、コンディショニングを重視する傾向が高まっている。リサーチパークは20年の創部当初から選手らと関わる中で「同じ練習を行っても、けがの頻度や成果の出やすさに違いがある」とコンディショニングと腸内環境の関わりに着目した。同病院によると、これまでは外科手術後に感染性合併症を発症した患者について、術前の腸内環境が不良な傾向にあったという研究結果がある。今回の研究により、健常時においても腸内環境の改善が重要であ

ることを明らかにする。腸内細菌の視点から、選手それぞれに効果的で効率的なコンディショニング法を確立できるという。

文科省の科研費助成事業は採択率が2割台と低いことに加え「採択されるほとんどが、研究員の多い大学病院での研究」と同病院の松波英寿理事長。リサーチパークは15年に助成対象の研究機関に指定されて以降応募しており、8年目にして念願がかなった。自身も今回の研究に携わる松波理事長は「研究機関としての実績はまだだが、内容が認められた」と喜ぶ。

同病院では25年度、生活習慣病患者らに健康指導を行う疾病予防施設(医療法42条施設)の開設を予定している。将来的には今回の研究を、減量が必要な一般人や患者に応用していく考えだ。研究代表者でリサーチパーク研究部の吉川智美課長は「研究を続け、社会に役立つ情報を発信していきたい」と意気込んだ。